4-1 派遣事業
（生徒編）

世界観を広げてくれたハワイ留学

北海道札幌手稲高等学校　２年

［参加した理由］

私は毎日オンライン英会話をしたり、英単語帳を常に携帯し、空き時間には目を通したりするほど英語を勉強するのが好きで、英語を公用語とするハワイの高校で勉強したいと思っていました。この事業に参加するまでは日本を一度も出たことがなく、広く外の世界を知って見たいと思い、高校生のうちに留学してみたいと強く考え、この事業に参加させていただきました。

［事前課題で設定した研究テーマについて］

私は「日本とハワイの食文化・食生活の違いについて」というテーマを設定しました。このテーマを設定した理由は、日本は基本的に朝食からしっかり食べるがアメリカは一般的にシリアルやパンケーキといった軽めのものを朝食でとり、夕食では肉や魚といったボリュームのあるものを取ると聞いたことがあり、それを確かめたいと思ったことが理由です。

ホームステイ先の家族に聞いたり、ワイパフ高校の生徒や他の留学生のホームステイ先にどのような食生活をしているかを聞いたりして調査しましたが、結果は、事前に調べていたとおり、私が調査した人たちの家庭では、日本と比べ朝食をあまり食べなかったり、朝食を食べないという家庭もあるということでした。私のホームステイ先では、朝食は毎日出してもらえ、日によってトーストやパンケーキと言った軽めのものが出たり、ご飯類が出たりする日もありました。アメリカでは、朝はご飯類が出ないと思っていたので驚くとともに、私はご飯類が好きだったので嬉しかったです。

他の家庭でも同様に、朝食は軽めのものが出ていることを知りました。アメリカでは朝食を食べないで学校に行く人もいて、その人たちは授業中にお菓子やご飯を食べていていると聞き、驚きました。また、ワイパフ高校の各教室には電子レンジがあり、持参した弁当を生徒が自由に温めることができ、日本と違っていてうらやましいと思いました。夕食は、私のホームステイ先で聞いていたとおり、ご飯と肉や魚といったボリュームのあるものが出てきたり、ハンバーガーやポテトといった、アメリカらしいものが出てきたいりするときもありました。

まとめると、事前に聞いていたとおり、ハワイの人たちは、朝食はあまり食べず、夕食はボリュームのあるものを取ることがわかりました。また、ハワイの人々はご飯類を食べないのではないかと思っていましたが、ご飯類もしっかり食べることがわかりました。実際にハワイの食習慣を体験し、私たち日本人の食生活とよく似ている部分も多々あり、驚くとともに、嬉しく思いました。

[留学中の思い出]

［1 日目］

出発式後、新千歳空港から羽田空港へ行き、ダニエル・K・イノウエ空港に行きました。ダニエル・K・イノウエ空港に到着後、この日は混んでいたため入国審査に１時間ぐらいかかり、入国審査では簡単な英語の質問に答え、ようやく入国することができました。入国審査後、荷物を受け取り外に出ると、ホストファミリーやスミス先生がプラカードを持って出迎えてくれました。ホストファミリーの家まで車に乗っている間、ホストファミリーと会話をしていく中で、羽田空港からハワイまで６時間しかなく、あまり眠れなかったこと伝えると、家に着いた後に４時間程度休みをくれました。また、車の中でアレルギーや嫌いな食べ物がないか聞かれて焦って答えてしまい、「ない」と答えてしまいましたが、家に着くと昼食が出された時にトマトが出てきて、もう一度嫌いな食べ物があるか聞かれ、トマトが嫌いだと伝えると親切に理解してくれました。留学では、何か聞かれたときに聞き取れなかったらわかるまで聞き返し、質問には落ち着いて正直に答えることが大事だと感じました。おやつとしてバナナ・ルンピアというバナナと砂糖を春巻の皮で包み、油でカリカリに揚げたフィリピンのおやつをホストマザーが作ってくれました。ホストファミリーがキリスト教で、日曜日だったので教会に行きました。アメリカの教会では楽器を演奏する人がいたり、合唱団がいたりして驚きました。教会に行った後は、家で夕食を食べました。夕食の前に、ホストファミリーにたくさんのお土産を渡しました。事前に SNS でホストファミリーとやり取りしていく中で、緑茶が好きだと聞いていたので、緑茶や抹茶のお菓子を持っていったり、特に、日本製の六角６色ボールペンをホストファミリー全員に渡すと喜ばれました。ホストファミリーからはＴシャツとパーカーをもらいました。また、夜はホストファザーにウォールマートというスーパーに連れていってもらいました。日本のスーパーと違ってカートが大きいことや、食品、日用品、おもちゃ、衣料品など何もかもが揃っていることに驚きました。ウォールマートでは、アメリカのキットカットを買ったのですが、日本のキットカットより甘く硬めで、４本のウエハースがつながっていてとても大きかったです。

[2 日目]

この日は初の登校日で、日本語クラスで校内ツアーやホストステューデントと日本語クラスの生徒を前に自己紹介スピーチを行いました。緊張していたのですが、ワイパフ高校の生徒が時々反応してくれてとてもやりやすかったです。校内ツアーで驚いたのは、校内の至るところに壁画があり、中には、広島の高校と姉妹校だということもあり、厳島神社の壁画があり、驚きました。この日は、授業

が終わった後にホストステューデントが受けている Early College という、高校生が在学中に大学レベルの授業を受け、高校のうちに大学の単位を取得できるというプログラムに参加しました。この日の Early College はスピーキングで、先生から与えられた議題に対して賛成か反対かに別れ、議論しました。先生の話している英語が早く、やっていることが難しく理解するのが難しかったです。

[3 日目]

この日は、ホストステューデントとエンジニアの授業を受けました。エンジニアの授業では、朝起きるためにどのような装置をつくるかという課題に対して、生徒がつくったプレゼンテーションを聞く時間でした。専門的な英単語が使われていて、理解するのが難しかったので、スマホの翻訳機能を使って日本語に変換することで理解することができました。１人１人プレゼンが終わったら、質問の時間を取り、質問したら先生から飴やチョコレートをもらっていることに驚きました。放課後には、ホストステューデントとその友だちで校内にあるカフェに行き、タイラテを飲みました。カフェは料理科の生徒が運営していると聞き驚きました。またホストステューデントに、校内にある売店に連れていってもらうと、ワイパフ高校のＴシャツやパーカーが売っていてセール品だということもあり、６ドルでＴシャツを買いました。この日もホストステューデントが受けている Early College を受け、この日はフィリピンの文化・歴史について学びました。自分の家族や故郷についてや、自分の母国語について話し合いしました。家に帰り、１日目、２日目にシャワーに入ったときにお湯が出なかったことをホストファミリーに伝えると、長時間出すとお湯になると言われ、困ったことがあるときは自分で抱え込まず人に言うことが、留学だけではなく様々な場面で大事だと感じました。

[4 日目]

この日は１時間目の途中で授業を抜け、ハワイ大学に行きました。ハワイ大学はハワイで一番大きい大学で、そこには様々な学部、日本やタイ王国などハワイで関わりのある国の建物がキャンパス内にありました。そこにはアメリカ最大のバオバブの木がありました。放課後にはワイパフ高校のテニス部に参加しました。一緒に練習に参加させてもらい、コーチや生徒が積極的にポジティブな声掛けをしてくれてとてもやりやすかったです。夜は家でアメリカ限定のハーゲンダッツを食べました。

[5 日目]

この日はホームルームがあり、ホームルームでは科目選択の紙を書いていて、書き終わった人はスマホを使ったり立ち歩いたりして、自由に喋っている様子に驚きました。また、この日はスペイン語の授業を受け、スペインの自己紹介の仕方やスペインの手遊びを学びました。放課後にホストファザーにワイケレアウトレットに連れていってもらい、食事や買い物を楽しみました。食事の代金を VISA で支払うときに、チップを選択する画面があり、初めてチップを払いました。

[6 日目]

この日は料理の授業があり、みんなでチョコクッキーをつくりました。アメリカンサイズでとても美味しかったです。放課後はホストファミリーにアラモアナに連れてってもらい、ショッピングを楽しんだり、人生で初めてのアサイーボールや Zippy's のチキンを食べたりするとともに、ビーチで花火を楽しみました。

[7 日目]

島一周のツアーに連れていってもらい、マツモトシェイブアイスでかき氷を食べたり、ビーチやドールプランテーションなどにも連れていってもらったりしました。

[8 日目]

この日は、私が行きたいと言っていたハワイ出雲大社や、カメハメハ大王像の見学に連れていってもらいました。その後、ホストステューデントに誕生日パーティにも連れていってもらいました。アメリカでは、誕生日を家族だけではなく友だちも参加して祝う文化があり、初めての体験でとても貴重な経験となりました。誕生日パーティでは、インポースターズやカードを使ってゲームをしたり、みんなでカラオケをしたりしました。またお肉やピザ、ケーキなどをみんなで分けてたべました。

[9 日目]

この日はアメリカの祝日で、ワイパフ高校の生徒とハイキングを楽しみました。絶景を楽しんだり人生で初めてのマラサダを食べたりしました。また、昼はZippy's で人生初のロコモコを食べたり、アサイースムージーを飲んだりしました。その後、ホストステューデントたちとショッピングモールに行ったり、夜はホストファミリーと焼肉を食べたりしました。

[10 日目]

登校最終日は、ハワイの伝統的な首飾りレイをつくったり、ハワイ語の授業を受けたりしました。夕方には、お別れパーティを開いてもらい、豪華な食事やケーキを食べさせてもらったり、ホストステューデントやホストファミリー、先生方など支えてもらった方に英語で感謝の気持ちを伝えたりしました。

[11・12 日目]

この日はホストファミリーとお別れする日。朝起きて、荷物の最終チェックをし、朝食を家で食べさせてもらいました。ホストファミリーに車でワイパフ高校まで送ってもらい、そこで最後のお別れをしました。ホストステューデントとは、来年北海道で会おうと言って別れの挨拶をしました。ワイパフ高校からは、他のホストファミリーの車で空港へ送ってもらい、その後、飛行機で無事成田空港を経由し、新千歳空港に帰ってきました。

［最後に］

まず、家族や北海道教育委員会の皆様、この留学を支えていただきありがとうございました。私はこの約２週間の留学で、宗教、食習慣、時間感覚など、全く異なる価値観をもつ人と生活することによって、日本では当たり前だと思っていたことが海外では当たり前ではないことに気付かされ、日本では得られなかった価値観を形成し、日本のよさを再発見するきっかけにもなりました。最初、ホストステューデントとは趣味が全く違っていて、仲良くなれるか心配でしたが、たくさん英語で会話していく中で仲良くなることができました。また、ワイパフ高校で受ける授業は初めてのものが多く、しかも英語で受けるため理解できるかという不安、楽しむことができるかという疑問がたくさんありましたが、ワイパフ高校の生徒は優しく、徐々に不安がかき消され、すべての授業の中には難しい授業もあったのですが、どれも面白く感じることができ、とても貴重な経験となりました。また、ホームステイも不安ばかりだったのですが、とてもファミリーは全員優しい方々で、最後は日本に帰りたくないと感じるほどとても居心地がよかったです。高校生のうちに海外留学ができる事業を企画していただきありがとうございました。一生の思い出になりました！

Amazing Experience in Hawaii

北海道札幌国際情報高等学校　１年

～『渡航前』～

ついに憧れだった留学ができる！留学の派遣生徒に選んでいただいたとき、家族と喜び、胸を躍らせたことを覚えています。私は海外や英語に強い関心をもっていましたが、この留学が初めての海外経験でした。その渡航先がハワイ、しかもただ渡航できるだけでなく、現地の高校に通うことができ、しかも滞在中は同じ高校に通うホストファミリーのお宅に住まわせていただく。これは現地のリアルな暮らし・文化を学びたかった私にとって魅力的なプログラムでした。また、ホストパートナーと連絡を取り合っていた際、私と私の家族に会いたいと言ってくれて、テレビ電話をしました。お互いの家族を紹介して質問などをして、渡航前の緊張を少しほぐすことができました。ホストファミリーとなる家族は全員現地の高校・ワイパフ高校の生徒さんなので、安心できるところも魅力の一つだと思いました。

私の留学中の経験は主に学校生活・ホストファミリーとの生活の二つにわけられるので順にお話します。

～『ワイパフ高校での生活』～

私にとって、現地の学校生活が始まるときが、留学の中で一番緊張した瞬間だと思いました。そこで私は、全く現地の雰囲気が分からない中で、どうやったらコミュニケーションをうまくとれて、たくさん友だちを作ることができるのか、というのをテーマの一つにしました。

私の学校生活は生徒会室から始まります。私のパートナーはワイパフ高校の生徒会長なので、朝は他の人より一時間ほど早く登校し、生徒会室で時間を過ごします。パートナーが事前に私のことを伝えてくれていたようで「Wow 来たのね！」といった welcome モードで迎えてくれました。

ハワイの生徒会は日本とは雰囲気が違ったものでした。私は中学の頃に生徒会をやっていましたが、日本では真剣な空気の中でまじめにならなければいけない雰囲気があります。しかし、ハワイの生徒会ではまるで仲のいいメンバーが集まった教室のような雰囲気です。人数もとても多く、20 人以上の生徒が、小さな生徒会室に順に入ってきて、前日あった面白いことなどの会話をしながらそれぞれ作業を楽しんでいます。会議が始まると

みんなが一つにまとまります。しかしそれでも固すぎる雰囲気にならず、会話形式のラフな口調で会議が行われるところが私の大好きなところでした。

授業では、本当にたくさんの出会いがありました。それぞれのクラスでたくさん自己紹介をして友だちをつくります。私は最初、相手の顔を見てどんな気持ちなのか考えすぎてしまうところがありました。ハワイの人は私にとって主に二つのパターンに分かれて、一つ目が welcome オーラ全開ですぐに話しかけやすい人。二つ目は、私にとっては少し壁をつくっているように見える人です。私は初日、この人は何を考えているんだろう、話しかけてもいいのかなと少し迷っていましたが、勇気を出して様々な人とコミュニケーションをとっていくうちに、どんな人でも私が明るく話しかけてみたら嫌がることなんかなく、普通に楽しくおしゃべりできることがわかりました。それから私は相手がどんな気持ちなのかをあえて気にしないことで、たくさんの系統の友だちを作ることができました。

そして私がもう一つ学んだことは、笑顔は世界共通のコミュニケーション方法だということです。例え自分の英語がうまく相手に伝わらなかったとしても、笑顔を常にもっていれば自分が会話を楽しんでいることを相手に伝えることができます。そして自分にとっても笑顔でいることは自信につながります。脳が楽しいと認識してくれるからです。ですので、話す言語が違うときこそ笑顔が必要だと感じました。ワイパフ高校での生活は毎日が楽しくて、成功するかわからなくても様々な挑戦をたくさんしてみることで、本当にたくさんの人と仲良くなれたし、自分でも、人ってこんな短期間でここまで仲良くなれるんだと驚きました。

～『ホストファミリーとの生活』～

私にとって、今回滞在させていただいたホストファミリーは感謝してもしきれない、そして大好きな存在です。私のホストファミリーは本当に明るくて社交的な、優しさで溢れた人たちです。アサイーボール、ビーチ、ショッピング、一緒にお菓子をつくったこと、アクション映画を見たこと、カードゲームをしたこと、コネクトフォーというゲームで誰にも一回も勝てなかったこと、じゃんけんピッピを教えたこと、ハイキングのときに「負けないで」を一緒に歌ったこと。ホストファミリーと一緒に行った場所、食べ物、楽しくて面白かった思い出は数えられないほどあります。ホストマザーのアクティビティさと大きな愛・優しさ、「all good!」が口ぐせのホストファ

ザーの底なしの明るさとアロハスピリットが私に寂しさを感じさせることなくホームステイを最後まで楽しませてくれました。ホストブラザーはエネルギーいっぱいな人で、ライスクリスピーを一緒につくったことや、眠くてシャワーを面倒くさがった私をおんぶして連れて行ってくれたことは面白い思い出です。また、よく「You OK?」と聞いてくれたり、別れを寂しがっているときにハグをして励ましてくれたりしたことなど、本当に優しさに溢れていました。ホストステューデントは生徒会長だけでなく、ハワイ州の高校生代表に選ばれるほど優秀なのですが、同時にすごく忙しそうでプレッシャーも大きいように見えました。それでも彼女は常に周りの人を笑顔にさせる明るさをもっていて、彼女の強さから多くのことを学びました。一緒に車でブルーノマーズを歌ったことや手遊びで爆笑したことは本当によい思い出です。そして私が一番感謝しているのは、精神面でたくさん学ばせてもらって成長できた点です。この 10 日間で、この家族からたくさんのことを教えてもらって、人間性や愛のかたちを学べたことはこの留学で自分にとって一番の財産です。助け合いやたくさん感謝・ハグをすること、ホストファミリーとの生活や会話から本当にたくさんの尊敬すべきことを学びました。もちろん大変だったこともありますが、そんな時は「すべていい経験」とポジティブに捉えて、気持ちをコントロールしました。この留学ではそういった困難なことを引きずらずに乗り越える力も身に付いた気がします。忙しいにも関わらず私を受け入れてくれたホストファミリーが大好きです。

～『おわかれ』～

ハワイで出会った人たちとのお別れはとても寂しいことでしたが、沢山の友だちが寂しくなるよと言ってくれたり、別れ際にレイをくれたりしたことが嬉しかったです。特に、ホストファミリーとのお別れは一段と悲しかったですが、たくさんハグをしてくれて、「来てくれてありがとうね。また会おうね。」と言ってくれました。授業に向かって歩いていくパートナーを見たときはついさっきまで笑ってハグをしていたのに、もう会えないんだと涙が止まらなくなりました。後から聞いたお話では、ホストパートナーも私がいなくなったときにたくさん泣いてしまったようです。日本に帰ってからもよくホストファミリーロスになりますが、彼らがくれた可愛いぬいぐるみを見て元気を出します！

ハワイで過ごした時間は自分にとって一生忘れられないものになりました。こんなに貴重な体験をさせていただいて、本当にありがとうございました！

いつもと違う環境で

北海道倶知安高等学校　１年

1．はじめに（このタイトルをつけた理由）

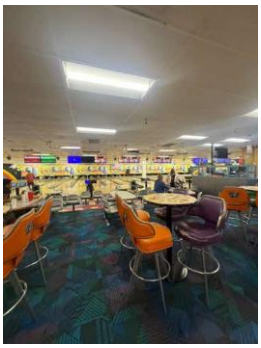
今回のハワイ短期留学は、私にとって世界がまるで違う宇宙に来たような感覚でした。到着した初日の夜は、不安で涙が溢れるほど日本に帰りたくなりました。しかし、ホームステイ先の家族がとても温かく、孤立感を抱えていた私を支えてくれました。

初日に両親の職業や性格について質問され、今の気分について、「シリアス or ファニー？」と聞かれました。私は迷わず「ファニー」と答えました。ホストファミリーもジョークが面白く、明るい雰囲気の家族だったからです。

2．ホストファミリーとの生活

最終日には、ホストマザーがたくさんのお土産を用意してくれ、服を３着もらったことには驚きました。スーツケースにお土産用のスペースを空けてきたのは大正解でした。どれも日本でも着ることができるシンプルでおしゃれな服で、とても気に入っています。

ホストファザーとはハグをして別れました。日本にはあまりない文化ですが、気持ちが伝わってくるようでとても嬉しかったです。さらに「帰りの飛行機の中で食べて」とスパムおにぎりを買って渡してくれました。優しさの詰まったそのおにぎりは忘れられない味でした。



ホストファミリーはとてもアクティブで、両親は毎週ボーリングに出かけ、母親は毎日ジムに通ってプロテインを飲んでいました。小学生の妹がカップラーメンを食べたいと言ったときに「体に悪い」と止めた場面が印象的で、健康意識の高さを感じました。

また、アートが得意なホストステューデントは、私のために歓迎の飾りや手づくりカードを用意してくれていました。ハイビスカスの絵は印刷かと思うほど上手で、時間をかけてつくってくれた気持ちがとても嬉しかったです。

毎日一緒に過ごす中で恋愛の話で盛り上がったり、学校でホストステューデントの友だち５人が声をかけてくれるようになったりして、少しずつ安心できる居場所が増えていきました。「ハイ」と言って私の腕にかわいいシールを貼ってくれる友だちもいて、文化や言語は違っても、嬉しいこと楽しいことは同じだと感じました。

ホームステイ先には犬が２匹いてとても癒されました。また、家族がかけた目覚ましアラームが早朝から何度も鳴り続け、本人は気づかず寝ているのに私は起きてしまうことがあり、それが面白くて印象に残っています。

3. 日本から持って行ったプレゼント

日本からのお土産として、扇子、がま口の扇子ポーチ、木彫りのフクロウ、布の小物入れ、ルタオの紅茶クッキー、日本製の抹茶ラテ粉、日本製のコーン茶、こんぺいとうの７点を用意しました。

ホストマザーは扇子を見てすぐ「これは私の」と気に入ってくれました。こんぺいとうはホームステューデントと妹がベッドの上で一袋食べ切っていて、アメリカ人は甘いものが好きだという父の話は本当だったのだと実感しました。

最終日にはハワイのチョコレートもたくさんもらい、「これはおじいちゃんおばあちゃんに」と祖父母の分まで買ってくれました。高校の担当教諭にも渡すことができ、物価が高い中でとてもありがたかったです。

4. 現地での英語（難しかったこと・学んだこと）

英語については、聞き取れなかった単語や意味を勘違いした言葉が多くありました。エビが苦手か聞かれた時、「shrimp」が全く聞き取れなかったこともありました。また、ＲとＬの発音が難しく、「rule」や「bird」が通じないこともありました。

ただ、「Can I go to the bathroom?」「I want to eat～.」など、簡単な文はよく伝わり、完璧でなくても伝えようとする姿勢が大切だと学びました。

5. 研修テーマ「日本とハワイの食文化の違い」

今回の留学で私がテーマとして調べたのは「日本とハワイの食文化の違い」です。実際にハワイの食事はすべて美味しく、食べたくないものはありませんでした。

ただ、「それしか食べないの？」と量が少ないことに驚かれる場面があり、日本と感覚が違うことを感じました。最も美味しかったのはマグロのポキで、外食で食べたバーベキュー味のポテトやフライドチキンも最高でした。ピザやハンバーガー、タピオカももちろん大好きな味でした。

家庭の食事は肉が多く、庭でのバーベキューでは豚肉を食べました。また、庭のスクリーンで映画を見ながらポップコーンを食べる夜があり、ポップコーンが夕食だったことには驚きました。

6. ハワイのお菓子文化

お菓子文化も印象的でした。授業中に多くの生徒が食べていたのは「Takis」という真っ赤な激辛スナックで、辛いのに旨みが少ないことが不思議でした。一方で、日本で発売すれば必ず人気が出そうなほど美味しいお菓子もありました。

特に、マカデミアナッツのキャラメル菓子、玉ねぎ味のポテトチップス、クラッカーとマシュマロ入りのチョコブロック、Hawaiian Host のマカデミアナッツチョコ、ICE BREAKERS というラムネが気に入りました。

7. ハワイの学校生活

学校生活では、英語で話す授業を日本人が理解するのは非常に難しく、全体の８割は理解できませんでした。しかし雰囲気を味わうことはできました。

また、学校のルールは日本よりも少なく、学習環境としては日本の方が整っていると感じました。その一方で、学生のフレンドリーさはハワイの方が素敵でした。

ウクレレの授業では、私一人に対して３人の学生が付きっきりで教えてくれ、少し弾いただけで大げさに褒めて盛り上げてくれました。その時間が学校で過ごした中で最も楽しく、忘れられない思い出です。

8. 日本とハワイの食文化の違い（3 点まとめ）

① **食事の量と食べ方の感覚**

ハワイでは、プレートランチなど一皿の量が多く、ボリュームのある食事が一般的だと感じました。一方で私は量が少ないことを驚かれる場面があり、日本とは「普通」の感覚が違うことを実感しました。

② **食事の内容（肉中心か、バランス重視か）**

家庭での食事は肉料理が多く、庭でのバーベキューなど「食事＝イベント」として楽しむ文化があると感じました。日本では和食を中心に、栄養バランスや季節感を意識した食事が多い印象があり、食事の考え方の違いを学びました。

③ **お菓子の文化と日常への入り方**

ハワイでは、授業中でもお菓子を食べることが自然で、Takis のような強い味のスナックをたくさん食べる文化が印象的でした。日本では授業中に食べる習慣は少なく、お菓子の位置づけが違うと感じました。

9. まとめ（留学を通して得たこと）

この留学を通して私は、食文化の違いは単に料理の違いではなく、健康意識、家族の過ごし方、学校生活の雰囲気、人との距離感など、生活全体に表れるものだと学びました。

最初は不安でいっぱいでしたが、ホストファミリーや現地の友だちの優しさに支えられ、最後には「もっとここにいたい」と思えるほどになりました。

今回の経験を今後の生活や学びに生かし、異なる文化を理解し尊重できる人になりたいです。

ハワイでの学びと気付き

北海道登別明日中等教育学校　４回生

【参加を希望した理由】

自分は英語と海外の文化に興味があり、この事業に参加したいと思いました。今はネットなどで情報を知ることができますが、実際に体験してみないとわからないことが数多くあると思いました。また、教科書では習えないようなカジュアルな英語表現などを知りたいと思いました。そして、経験から得られたことを今後の生活などに活かしたいと思い、参加を希望しました。

【学校生活】

学校では日本の座学のような授業はあまりなく、机を円にして、話しながら行っている授業がとても多く、楽しみながら学ぶことができました。また、自分たちで考えたことについての発表を聞く授業があったのですが、とてもユニークで、納得するものから奇想天外なものまであり、とても面白く感じました。また、スペイン語のクラスでは誕生日の人がいて、そこで授業中に誕生日を祝いカップケーキをみんなで食べていて、日本との違いに驚きました。

全体的に、生徒の主体的な姿勢に驚きました。質問したり、分からないことを聞いたりする姿に驚き、自分もこうなりたいと感じることができました。

【生活】

１月 11 日

羽田空港を経由してハワイへ向かいました。長時間の移動で疲れと、初めての海外経験となるため、とても緊張していましたが、ホストファミリーに出会ったときにハワイのレイを首にかけてもらい、気持ちを少し和らげることができました。空港から移動しているときもフレンドリーに話かけてもらい、楽しく会話することができました。その後、Zippy's というお店でロコモコ丼を食べました。美味しかったのですが、日本と味付けが違って味が濃く量も多かったです。その後は家の外でバスケットボールをして遊び、少しずつ新しい環境に慣れていきました。

１月 12 日

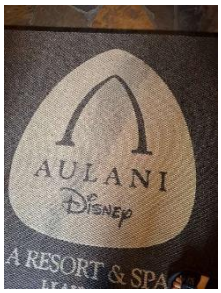
初登校となったこの日は、日本語の授業で自己紹介プレゼンテーションがあり、人数もとても多く、また英語で話すことに緊張して発表を行いましたが、少し詰まりながらも自

分なりにうまく発表できてよかったと感じました。一方で、時差ボケの影響で少し眠気がきて、慣れない環境での大変さを感じました。

１月 16 日

この日は放課後にワイキキへ行き、夜に花火を見ました。海で打ち上がる花火は、日本で見るものよりも一つ一つが大きく、音や光の迫力を強く感じました。周囲には多くの人が集まっており、本当に毎週末行っていることに驚きました。違う国で見る花火は特別で、美しさがとても思い出に残りました。

１月 17 日



この日は、ハワイにあるディズニーストアに行った後、コホラ・ラグーンという海に行きました。そこで海に入ったのですが、思っていたより寒く、意外な感じがしました。その後、アラモアナショッピングセンターで買い物をしました。夜に行ったのですが、屋根がついておらず比較的涼しい環境で買い物をすることができました。また、自分が行ったところは一部分だったのですが、とても広かったです。夜はホストの祖父の家で夕食を食べました。ホストの家は靴を脱ぐ家でしたが、ホストの祖父の家は靴を履いたまま入る家で、文化の違いが新鮮でした。

１月 18 日

この日は、ホームステイの家から少し離れたノースショアを訪れ、かき氷を食べました。かき氷はとても美味しく、見た目もとても綺麗でした。道中、田舎道の風景が北海道に似ていました。また、帰りにドンキホーテに行ったのですが、入るときはリュックの中を確認し、出る時にレシートを見せるという日本ではあまりないシステムに驚きました。その後、夕食はバーベキューをしました。バーベキューの方法は日本とほとんど同じでした。その後、カードゲームやバスケットボールをして家族との関係がより深まったと感じました。

１月 19 日

この日は祝日でしたが、日本語クラスの人たちとハイキングに行きました。ハイキングでも色々な人と交流することができ、とても楽しく話しながら登ることができました。その後、ホストファミリーとシュノーケリングをするために近くの海に行きました。シュノーケリングでは、ウミガメを見ることができました。海の生き物は人間を見ても驚いたり逃げたりすることはありませんでした。今

まで現地の人間が生き物を大切にし、適切な距離をしっかり考えながら共生してきた結果だと感じました。

【事前課題】

ハワイでは、どこへ行っても自然が多く見られ、住宅の敷地内に大きな木が生えている家も多くあり、自然をとても大切にしている地域だと感じました。街全体が緑に囲まれており、人工物と自然が共存している印象を受けました。

また、食文化については、家庭での食事は日本と同じように基本的にお米が中心であり、時々パスタなどが主食で出てくる点も日本と似ていると感じました。一方で、お米の特徴は日本のものとは異なり、粘り気があり、水分を多く含んでいるなどの違いがあることが分かりました。

さらに、多くの住居は高床式の平屋の家で、風通しが非常によく、気温が高くても比較的涼しく感じられ、過ごしやすい環境であると感じました。また、ホストファミリーの家庭では、日中、リビングの電気をつけておらず少し暗いと感じましたが、日差しが強く明るく照明に頼らない生活がとても印象に残っています。

【まとめ】

まずは、家族や教育委員会、ホストファミリーの皆さん、今回は貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

なんとなく知っていたことや知らなかったことをこの留学で体験することができ、とても楽しかったと同時に、まだまだ知らないことがあるのだと実感し、もっと学びたい、知りたい、そのために様々なことを体験していくことが大事だと思いました。そして、ハワイ以外の他の国のことについても知りたいと感じました。また、今回ワイパフ高校に行くことができ、高校の違いなど様々なことに驚かされながら学ぶことができてとても嬉しく思っています。

留学中は毎日を楽しく過ごすことができました。しかし、その中で驚きや気付き、発見をさせていただいていろいろ経験することができました。これから英語をもっと勉強して、またこのような経験ができるように頑張りたいと感じました。

ハワイ留学で広がった私の世界

北海道旭川北高等学校　２年

《応募した理由》

私は、教科書や授業で学んできた英語を実際の生活の中で使う経験を通し、実践的な英語を学習する中で身に付けたいと思いました。これまで英語を学習する中で、読む・書く力は身に付いてきた一方、会話において自分の考えを英語で伝えることに難しさを感じてきました。そのため、英語が日常的に使われる環境に身を置き、現地の人と英語で意思疎通をしたいと考えました。また将来、国際系に興味があり多様な文化や異文化理解を深めたいと思い応募しました。

《ハワイでの生活》

【１日目】

ハワイに着くと甘い匂いが漂ってきました。空港を出ると、各家庭のホストファミリーがお迎えしてくれました。ハワイ文化で歓迎、尊敬、友情などを意味するレイを受け取りました。最初は事前にホストファミリーとのやり取りが上手くいかず、不安でしたが、車内で話していくうちにすぐに仲良くなることができました。その後、コオリナビーチに行きました。景色が綺麗でハワイの自然を感じることができました。少し散歩をした後、家に帰りました。夜は家族全員でウノをしました。会話が自然と弾み、すぐに仲良くなることができました。

【２日目】

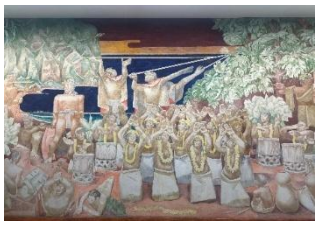
この日はワイパフ高校への初の登校日でした。最初にキャンパスの説明がありました。日本の大学のような雰囲気でした。その後、日本語クラスの人の前で自己紹介を行いました。最初は緊張していましたが話していくにつれて慣れていき、楽しく発表することができました。その後は日本語クラスやホストの授業に参加しました。日本語クラスの生徒は、日本を好きな子が多く、日本の話をしたらとても興味深く聞いてくれました。しかし、ホストステューデントの授業は、ほとんど何を言っているかわからなかったです。話すスピードに圧倒されました。そのため、私は、自分のリスニング力のなさを実感しました。この日は家でのんびり過ごしました。

【３日目】

この日は、ウクレレの授業がありました。初めて弾くので、手の動き方が難しかったけど、グループのメンバーが優しく教えてくれたので上手に弾くことができました。音楽は、言語を越えて楽しく会話できる要素だと感じました。夜は、家の近くのカ・マカナ・アリイというモールに行き、お土産をたくさん買いました。

【４日目】

この日は、留学生全員でハワイの大学”UH　MANOA　UNIVERCITY”に行きました。日本の大学と同じく、その広さにとても驚きました。また、日本エリアや韓国エリアなど、国ごとのエリアでその国のことについて学ぶことができる制度がありました。その後、文化センターを訪問し、ハワイの歴史について学びました。ハワイには、キロという五感を使って自然を学ぶ考え方があることを知りました。訪問後は学校に戻り、テニスクラブに参加しました。ペアの生徒は、私がミスをしても毎回優しく声をかけてくれました。スポーツは、コミュニケーションを楽しむ一つの方法だなと改めて実感することができました。夜は、アサイーボールを食べました。フルーツがたくさん入っていてとてもおいしかったです。



【５日目】

この日は、美術の授業を受けました。一緒のグループの生徒が日本語を習っていたので、英語と日本語の教え合いをしていました。絵を描きながら映画やアニメのこと、日本とハワイの文化の違いについてたくさん話すことができました。放課後は、ドールプランテーションに行きました。最初の日より、マザーが話していることが聞き取れるようになってきて車内でも楽しい時間を過ごすことができました。パイナップルソフトがとても美味しかったです。

【６日目】

この日は、留学生とチャンククッキーを作りました。砂糖とバターの量がとても多く驚きました。わかりやすいジェスチャーを使って説明してくれて楽しい時間を送ることができました。焼き立てのクッキーは温かくとても美味しかったです。その後は、ハワイの伝

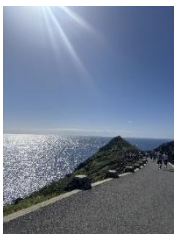
統的なゲームをしました。聞き馴染みのない発音（ハワイ語）や面白いゲームが多かったです。また、生徒が案内してくれて色々なゲームをすることができました。ホストステューデントが誕生日だったので、放課後はピザを食べ、カードゲームをして過ごしました。

【7、８日目】

７日目は、ホストステューデントの誕生日会を行いました。ゲームプレイスのある店に行き、ヒューマンクレーンやバイクなどのたくさんのゲームがあり、色々なゲームを皆ですることができてとてもいい思い出になりました。その後、ポキ丼やロコモコなどのハワイアン・フードを食べました。８日目の朝は、チャーチに行きました。歌を歌ったり、ジョークで盛り上がったりして、思っていたよりも楽しい印象を受けました。その後、マラサダを食べました。意外とあっさりしていて食べやすかったです。そして、家族全員ディズニーが好きだということで、アウラニに行きました。とても暑かったので、シェイブドアイスを食べました。土日は行きたいところに連れて行ってくれて、家族で楽しい時間を過ごすことができました。

【９日目】

この日は、留学生と日本語クラスの生徒と一緒にマカプウ山でハイキングをしました。話をしていたらすぐに着いたので一瞬の出来事でした。天気がよく、北海道では見られない景色が広がっていてとても感激しました。夜は、ワイキキビーチへ行き、サンセットを見ながらガーリックシュリンプを食べました。この日が最後のビーチだったので悲しくなりました。



【１０日目】

最後の登校日でハワイ語の授業を受けました。ハワイ語は、英語と似ている言語だと思っていたけど発音もスペルも全く違っていて驚きました。ハワイではハワイ語を話す人が少なくなっていると聞いて切なく思いました。最後の夜は、各家庭のホストファミリーとパーティーを行いました。そして、シスター

に感謝の気持ちの手紙を伝えました。10 日間、ずっと私を助けてくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。最後の夜は、家族とウクレレを弾きました。

【１１日目】

家を出る前に、感謝の手紙を渡しました。10 日間という期間、ホストファミリーと共に過ごした時間は忘れられません。またすぐにハワイに戻る！と心に誓い、別れを告げました。帰りの飛行機では他の留学生と思い出話をして盛り上がりました。とても充実した 10 日間でした。

《事前課題から得た気付き》

事前課題として、私は真珠湾攻撃をテーマに設定し、日本とハワイの歴史的関係について調べました。しかし、今回の研修では実際に真珠湾を訪れる機会がなく、現地で詳しく学ぶことはできませんでした。そのため、事前に調べた内容と現地での体験を十分に結びつけることができず、自分の準備不足を感じる結果となってしまいました。一方で、この経験を通して、歴史的な出来事を本当に理解するためには、事前学習と現地での体験の両方が重要であることに気付きました。また、ハワイという土地がもつ歴史的背景について知識がなかったので、現地の人々の価値観や考え方を十分に理解できていなかったのではないかと感じました。国際的な視点を身に付けるためには、語学力だけでなく、その国や地域の歴史、背景を学ぶ姿勢が重要だということを目の当たりにしました。今回の反省を踏まえ、今後は一つのテーマについてより主体的に調べ、理解を深める姿勢を大切にしていきたいと思います。

《これからの学びと今後へ》

今回の研修を通して、英語力だけでなく、異なる文化や価値観を理解しようとする姿勢の大切さを学びました。特に、最初は英語が思うように伝わらなかった経験から、完璧さよりも「伝えようとする意志」がコミュニケーションにおいて重要であると感じました。

今後は、英語学習においても、語彙や文法の習得に加え、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を意識して取り組んでいきたいと思います。また、歴史や国際的な出来事についても、日本の視点だけでなく他国の立場を調べ、多角的に考える姿勢を身に付けたいと考えています。将来、国際系の分野に進むことを視野に入れながら、今回の研修で得た経験を基盤として、異なる背景をもつ人々と協力し、理解し合える人間へと成長して行きたいと思います。

About Hawaii　～Everyone Is Different, Everyone Belongs～

北海道北見北斗高等学校　１年

○ ホームステイ中の生活について

私は同じ年齢のホストシスターの Cess ちゃんと弟、お母さんの三人暮らしをしている家庭にホームステイをしました。３人でアパートメントに暮らしていて、時々ホストマザーの彼氏さんが来て、車でビーチなどに連れて行ってもらいました。

ホストマザーは晩御飯をつくってくれたのですが、朝早くから仕事に出かけていたため、朝御飯は基本、自分で作らなければなりませんでした。日本ではいつも母がつくってくれていたので、「明日の朝ごはん何食べるの？」とホストマザーに聞かれたときは戸惑いました。Cess ちゃんが手伝ってくれたときもありましたが、晩御飯の残りや自分でつくった卵焼きやサラダなどを朝御飯にしました。ホストファミリーの家庭では、自分のご飯は自分で用意するスタイルだったので、これからは自立できるように家事もやっていこうと気付かされました。

放課後は Cess ちゃんや Cess ちゃんの友だちと一緒にご飯を食べに行ったり、ビーチに行ったりしました。友だちはすごく優しくて、楽しく過ごすことができました。会話の中で Cess ちゃんたちが使うスラングや流行りの TikTok などを教えてもらって、とても面白かったです。わからない言葉は丁寧に教えてくれたので、分からないことは正直に「わからない」と言った方が自分のためにもなるし、会話が弾むと思いました。

一番楽しかった思い出は、金曜日にワイキキビーチの花火を見て、その後、暗くなるまでビーチで遊んだ事です。Cess ちゃんと友だちと一緒に、砂浜で鬼ごっこをしたりワードウルフをしたりして、とても楽しかったです。非日常の特別感を味わうことができて、その日のことは忘れられません。

○ Waipahu 高校での授業や交流

学校へは毎日バスで通いました。バスは日本でよく見るものよりも大きくて、交通機関に乗るだけで新鮮に感じました。授業時間が日本とは違い、35 分や 81 分など毎授業時間が異なっていて、学校が終わるのも日本と比べて早かったです。授業も日本とは全く違って、生徒たちは日本の大学みたいに自分の好きな授業を選択していました。授業内では生徒が主体となって積極的に話し合いをしていました。特に印象的だったのは、エンジニアリングクラスです。生徒たちは日々の生活をよりよくするための商品をデザインし、予算も立ててプレゼンしていました。質問した生徒には先生が飴を配っており、生徒たちが積極的に質問していました。このことから、質問をすることが良いとされており、議論することで考えを深めることを大切にしているということが分かりました。

また、ハワイの文化を学ぶ授業もありました。レイ作りやウクレレ、伝統的な遊びなどの体験をしました。レイは、大事な行事やお別れの時などに渡す大事なものだと知りました。その他にも知らないことが多かったので、とても面白かったです。

すべての授業でそうでしたが、特に日本語クラスではワイパフ高校の生徒との交流が多かったです。多くの生徒がフレンドリーに話しかけてくれて、お互いのスラングを教え合ったりしました。また、日本のアニメが人気で、アニメの話題は盛り上がりました。話していてとても楽しかったです。

校内にはアジア系の生徒が多いことに気付きましたが、日本にルーツがあっても日本語を話せない人が多いことを不思議に思いました。その理由は、授業の一環で訪れた「Harry & Jeanette Weinberg Visitor Education Hale」で判明しました。

ハワイにサトウキビプランテーションができた際、日本やフィリピン、中国から多くの人々が労働者として移住してきた歴史があったのです。私が会った生徒たちは、かつて仕事を求めて海を渡った日本人の子孫なのだと理解でき、ハワイの歴史的背景を学ぶことができました。

○ 研究テーマ：ハワイで行われている環境問題への取り組みについて

ハワイに行く前は、ハワイは島国で有名な観光地であるため、環境を守るためにたくさんの種類のゴミの分別があり、道路などの清掃も行き届いているのではないかと思っていました。実際の取り組みについて知るために、ホストファミリーに質問したり、街の中を観察したりしました。

・ゴミの分別の仕方やリサイクルについて

ゴミの分別はリサイクルのためのペットボトルだけで、他のゴミは全て一緒に捨てていました。Cess ちゃんの家庭でもペットボトルとその他の二種類だけで、浜辺などに設置されたゴミ箱もそうでした。リサイクルについて知りたいと思い、ホストマザーに聞いてみると、ペットボトルのラベルに 5¢と書かれており、リサイクルに出すとその金額が戻る仕組みがあると教えてくれました。Cess ちゃんの家庭は、Waipahu recycling というところに出しに行っているそうです。

調べてみると、ハワイでは対象ボトル飲料の購入時に１本５セントを預け、リサイクルセンターへ返却するとその５セントが戻ってくるという廃棄削減制度のボトル法案（デポジット制度/HI-5¢）があり、リサイクルの促進と廃棄量の削減を目的にしていることがわかりました。日本にはない制度で、驚きました。しかし、ゴミの分別が二種類しかないことは予想外で、環境にはあまり良くないのではないかと思いました。

・海や珊瑚を守る取組

→日焼け止めの成分

ハワイでは、サンゴに有害な「オキシベンゾン」と「オクチノキサート」を含む日焼け止めの販売・流通が法律で禁止されています。私は行く前に知ったので、成分を確認してから買って持っていきました。

→ビーチのシャワーにあった注意書き

外に設置されているシャワーに、海を汚染しないように「No soap」と書かれたサインがありました。

→ビーチのゴミ拾い

夜の Hilton Hotel のビーチで、複数人で清掃活動をしているのを見かけました。海岸のゴミを拾っていました。

・Waipahu 高校やハワイ大学での環境への取組

Waipahu 高校の部活動で政府と協力しながら海洋保全の取組をしているそうです。またフードバンクや道路の清掃活動も生徒たちで行なっています。また、ハワイ大学では、再生可能エネルギーだけを使っている建物があったり、Ocean Science Team で海洋保全の取組をしているというお話を聞きました。ハワイの再生可能エネルギーは、太陽光発電が一番多いそうです。大学内にも自然が多く、環境を守るための一つの取組でもあると思いました。また、ハワイの多くの人が環境を守りたいという共通の思いがあるということも教えてもらいました。

〇 交換留学を通して

ハワイの人たちは優しくて、とても楽しく過ごすことができました。彼らの優しさには、ハワイが様々な国から移住してきた多様な人が多く混在している島であるという背景があるということを学びました。学校のポスター『Everyone　Is different 』にもあったとおり、みんな違ってみんな良いという意識が多くの人にあり、お互いの個性を尊重し合っているのが素敵だと思いました。私自身も、ワイパフ高校の人たちのお互いを認め合う姿を見て、『自分は自分で良い』と思うことができ、気を楽にして過ごせました。この経験を通して学んだことを、今後の海外留学や日常生活に活かしていきたいです。最高の思い出ができました。ありがとうございます。またハワイへ行きたいと強く思います。

ハワイ留学を通して

北海道網走南ケ丘高等学校　１年

①参加した理由

私は小学校六年生の頃から英会話を習い始め、次第に英語そのものだけでなく、英語を使って異なる文化や価値観をもつ人々と関わることに興味をもつようになりました。中学生になってからは、英検の取得を目標に日々学習を続けており、英語を「勉強するもの」から「実際に使うもの」へと広げていきたいと考えるようになりました。その中で、海外での生活を実際に体験できる留学は、語学力の向上だけでなく、自分の視野を広げる貴重な機会になると感じ、この研修に参加することを決意しました。特に、ハワイは多民族・多文化社会であり、日本とは異なる価値観や生活様式を学ぶことができると考え、大きな期待と少しの不安を抱えながら出発しました。

② 事前学習

事前課題として、私は「日本とハワイの文化や価値観の違い」を学びのテーマに設定しました。日本では、周囲との調和を大切にし、空気を読むことや相手に配慮した行動が重視されます。一方、ハワイでは、一人一人の個性を尊重し、自分の意見をはっきりと伝える文化が根付いていると知りました。また、ハワイは多民族社会であり、異なる人種や宗教、価値観をもつ人々が共に生活している点も、日本との大きな違いであると感じました。事前学習を通して、このような環境の中で人々がどのように互いを尊重し合っているのかを、現地で実際に体験しながら学びたいと考えました。

③ 現地での学校生活

ハワイ到着後、最初は言葉や環境の違いに不安を感じましたが、ホストファミリーや現地の生徒たちがとても温かく迎えてくださり、次第に緊張がほぐれていきました。学校では、授業中に積極的に意見を出し合ったり、グループで話し合いながら学習を進めたりする場面が多く、日本の授業とは大きく異なると感じました。看護の授業では実際に血圧測定を行うなど、体験的な学習が中心で、知識を実践と結び付けて学ぶ姿勢が印象に残りました。また、日本語クラスでは、自己紹介の発表やゲーム形式の活動を通して、生徒同士の交流が活発に行われており、言葉の壁があっても積極的に関わろうとする雰囲気がありました。発表後に声をかけてもらったり、ヘアゴムやシールをもらったりしたことがとても嬉しく、勇気を出して挑戦してよかったと感じました。

④ 文化の違いから学んだこと

生活面では、日本とハワイの文化の違いを数多く実感しました。ハワイでは、髪型や服装、ピアス、メイクなどに対する規制が少なく、個人の自由や個性が尊重されていると感じました。また、バスの中でウクレレを演奏する人がいたり、知らない人同士でも自然に会話が生まれたりと、人と人との距離が近いことも印象的でした。さらに、授業中にイヤホンを使って作業をする生徒がいたり、遅刻に対しても比較的寛容な雰囲気があったりと、日本とは異なる価値観に触れる機会が多くありました。一方で、先生の話をしっかり聞き、個人作業や話し合うときには集中して取り組む姿勢は日本と共通しており、文化が違っても学ぶ姿勢そのものは変わらないと感じました。このような違いと共通点の両方を実体験として理解できたことは、大きな学びとなりました。

⑤ 日常生活での印象的な思い出

ホストステューデントとの生活も、忘れられない経験です。朝早くから一緒に準備をし、バスで通学したこと、放課後にショッピングモールやビーチへ連れて行ってもらったこと、夜にはゲームをしたり、たくさん話をしたりと、毎日が新鮮でした。特に、ワイキキビーチで過ごした時間や、ウクレレの授業、ハイキングで見た美しい景色は、ハワイならではの体験であり、強く心に残っています。中でも、花火を見た後、夜遅くまでビーチでワードウルフのようなゲームをしたり、鬼ごっこをしたりして遊んだことは、特に印象に残っています。その帰りの車の中で、みんなでカラオケをして盛り上がったことも、本当に楽しい思い出です。また、宗教の集会に参加し、文化や価値観の違いについて直接話を聞く機会を得たことで、多様性についてより深く考えるようになりました。

⑥ 研修を通して得た学びと今後への活かし方

今回の研修を通して、私は「違いを恐れず、受け入れることの大切さ」を学びました。言葉が完璧でなくても、自分の気持ちを伝えようとする姿勢が、人とのつながりを生むことを実感しました。また、多様な文化の中で生活することで、自分自身の考え方や価値観を見つめ直す機会にもなりました。

今後は、この経験を生かし、英語学習により一層励むとともに、異なる背景をもつ人々と積極的に関わり、相手の立場に立って考えられる人間になりたいと考えています。今回のハワイ研修は、私にとってかけがえのない学びと成長の機会となりました。北海道教育委員会関係者の皆さん、ワイパフ高校関係者の皆さん、ホストファミリーの皆さん、同行してくださった先生方、そして北海道立学校ふるさと応援事業に寄付をしてくださった皆さんに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。